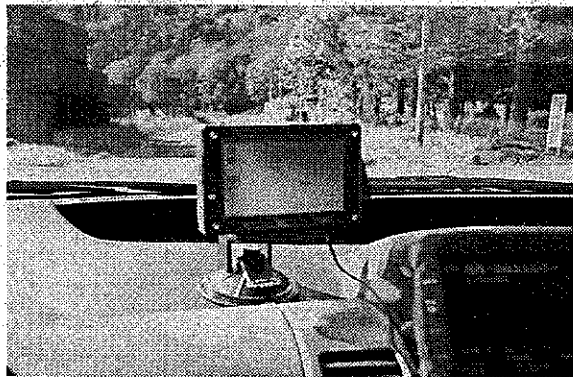


「児童の飛び出しに注意してください」



車両に取り付けた運行管理システム

NIPPO

NIPPOは、工事用車両のドライバーに危険箇所などで注意を促す「ダン
プ運行管理システム」を開発・実用化した。工事現場内だけでなく、周辺の道
路で歩行者が多かったり、子どもが飛び出したりするような箇所をあらかじめ
特定しておき、走行中のドライバーに音声や絵・文字などで伝える。第三者を
巻き込む公衆災害を防止する取り組みの一環で、カーナビゲーションシステム
を利用できる同システムをカーナビック（東京都新宿区）に協力してもらい、
開発した。現在、北海道内の高速道路舗装工事に使用している。企業の社会的
責任が問われる中、「導入手場を拡大していきたい」（高橋幸男施工指導マネ
ージャー・リーダー）と話す。

ダンプの安全走行支援

音声と画面で注意喚起

舗装工事では、現場周
辺の学校や幼稚園、病院
などの存在をあらかじめ
確認しておき、資材を搬
入する車両が運行する際
の注意ポイントを示すハ
ザードマップを作製す
る。現場内での事故だけ
でなく、工事用車両の運
行に伴って第三者に危害
を加えてしまう公衆災害
を防止するのが狙いだ。
同社が開発した運行管
理システムは、ハザード
マップの情報を電子地図
上に入力しておけば、車
両が危険箇所付近へと
自動的に、「まもなく学
校です。注意して走行し
てください」「児童の飛
び出しに注意してくださ
い」といった音声やボツ
プ画面を発することがで
きる。

「さまざまな注意事項
を知らせることができ
る。現場内でも、通行証
の掲示、誘導なしのバッ
クの禁止、徐行などのル
ールを徹底させるのに役
立つ。
積雪など季節に応じて
変化するため、すぐ
に対応できるので、現場
のアイデア次第でさまざ
まな活用方法がありそ
うだ。
同システムを取り入れ
た北海道横断自動車道
「夕張舗装工事」を担当
する同社の桶田健二所長
は「公衆災害がクローズ
アップされているので、
車両運行の安全確保に役
立てたいと思った」と話
す。実際、現場から数十
キロ離れた生コンプラント
から材料を運んでおり、
その際の安全確保に効果
を発揮しているようだ。
現場職員が乗る一般車両
にも取り入れている。
システムは、電源とモ
ニター画面、音声スピー
カーで構成。走行時のデ
ータや資材の搬出入など
の情報はメモリーカード
に保存できるので、デー
タ管理も行える。

日刊建設工業新聞
平成22年11月11日掲載